

## 南アフリカ 嵐の後の寒さでリンゴの着色が良好

[EUROFRUIT 2024年4月17日](#)

南アフリカのリンゴとナシの供給者らは、最近の悪天候にもかかわらず、前向きなシーズンに向けて順調に進んでいると言う

南アフリカの西ケープ州では、最近数回発生した風と嵐の後に短期間だけ低温が続いたことで、赤・ピンク系のリンゴの着色が驚異的に進み、素晴らしいシーズンへの期待が高まっている。

リンゴとナシの大手輸出業者であるトゥルーケープマーケティング社は、風の被害が多少あったものの、その後の寒い天候が素晴らしい着色につながったとしている。

同社のロルフ・ピーナー常務は、「定量化は難しいが、4月6日と7日の強風で傷ついたり、吹き飛ばされたりしたのは、弊社の未収穫のリンゴのおよそ3~4%に過ぎないと推定される。被害は特定の地域や農場に限られており、幸いなことに、セリーズ地域とEGVV地域(エルジン、グラボウ、ヴィリアーズドープ、バイブームの各地域を合わせた名称)の全体像から見れば、軽微である」と述べた。

ピンクレディー、ロージーグロー、グラニースミス、サンダウナー等のリンゴの品種は現在収穫中か、まだ収穫が始まっていない。

同社のカラ・デュトワ調達部長は、「通常より寒い天候は、着色に大きな違いをもたらした」として、「風の被害が最も大きかった果樹園ではリンゴの約4%を失ったが、風で失ったものよりも、色が良くなったことの方がはるかに価値がある。果実は現在、きれいな色をしている」と述べた。

セリーズ地域に拠点を置くデュトワ・グループのエニー・デュトワCEOは、同社は今シーズンこれまでのところ満足していると語り、「我々としての課題はあるが、それでも良いシーズンだ」と断言した。

果樹生産者協会(Hortgro)の最新の予測では、南アフリカは今シーズン、約4,650万箱のリンゴを輸出する見込みである。これは、昨年の4,440万箱よりも7%多い。

ナシの出荷量は1,910万箱で、昨年の輸出量を3%上回る見込みである。

執筆者: フレッド・メインチェス

訳注: 翻訳記事は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品等を推奨するものではありません。